

2019. 4. 30.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：5月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《4月のおはなし会で使った本》

『Open up, please!』 Silvia Borando/ぶん Lorenzo Clerici/絵 Candlewick Press 2016

『にんじんさんがあかいわけ』 松谷みよ子/ぶん ひらやまえいぞう/え 童心社 1989

『だからこぶたちちゃん』 きたやまようこ/作・絵 偕成社 1987

『でんしゃでいこうでんしゃでかえろう』（大型絵本） 間瀬なおかた/作・絵 チャイルド本社 2005

★新刊児童書閲覧会

○日時：5月18日（土）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：40名（要申込み・先着順）

○申込方法：5月15日（水）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★幼稚園・保育園のための子ども読書研修会

○日時：6月1日（土）13：00～15：00 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○講師：前園 敦子氏（紙芝居文化の会運営委員、子どもの本の専門店「エルマー」主宰）

○演題：「紙芝居、演じる喜びを・・・」 ○対象：県内の幼稚園教諭、保育士等

○定員：60名（要申込み・先着順） ○申込方法：5月25日（土）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『へいわとせんそう』 たにかわしゅんたろう/文 Noritake/絵 ブロンズ新社 2019.3 ¥1200

平和の僕と戦争の僕、平和の私と戦争の私。その違いは顔の表情から伝わってくる。平和の父は子どもと遊び、戦争の父は銃をかまえる。平和の母は子どもをひざに本を読み、戦争の母は我が子を敵から守ろうと身構える。そして最後のページには味方の赤ちゃんの赤ちゃんと敵の赤ちゃん。シンプルな言葉と絵が戦争の理不尽さと怖さをいっそう感じさせる、親子で読みたい平和絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『おにいちゃんとぼく』 ローレンス・シメル/文 ファン・カミーロ・マヨルガ/絵 宇野和美/訳 光村教育図書 2019.2 ¥1200

ぼくのお兄ちゃんは記憶力がすごい。どこに何を置いたのかよく覚えているし、階段が何段あるかも全部覚えている。何週間も前に誰かが言ったこともそのとおりに思い出せるし、読んだ本のこともよく覚えている。目が見えないお兄ちゃんは、暗闇の中でも点字をなぞって本を読むことができる。お話もとても上手。お兄ちゃんのことが大好きな僕の視点で描かれた心温まる絵本。

『たべものやさんしりとりしたいかいさいします』 シゲタサヤカ/著 白泉社 2019.3 ¥1200

ある町で開催されることになった「食べ物屋さんしりとり大会」。ぞくぞくと食べ物たちが集まってくる。おすしやさん、パン屋さん、ケーキ屋さん、ラーメン屋さん、レストラン…最初は「あ」のつくアップルパイ、いくら、ラーメン…ダメですダメです！んがつくのでしきりなおし！こんな調子で食べ物たちが大奮闘。さて優勝はどのチーム？絵も言葉も楽しめるしりとり絵本。

『もくもくをつかまえた』 ミカエル・エスコフィエ/文 クリス・ディ・ジャコモ/絵 ヨシタケシンスケ/訳 クレヨンハウス 2019.3 ¥1500

もし君が森の中を歩いていて、もくもくした雲みたいなものをみつけたらどうする？もくもくは思い通りにいかない。大切に扱っても逃げちゃう。だからどっかに行かないようにしたくなるけれど、それじゃあだめなんだよね。どっかに行っちゃってびっくりしたり、がっかりしたり、ムカムカしたり…いったいもくもくとは何だろう？自分なりの読み方が楽しめる人気絵本作家の初訳絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『くまくらべ』 ケイティ・ヴィガーズ/作 マシマ・インターナショナル株式会社/訳 東京書店 2019.4 ¥1380

日本ではお馴染みのツキノワグマをはじめ、「くまのパンディントン」のモデルになったメガネグマ、アメリカグマ、ナマケグマ、ヒグマ、ジャイアントパンダ、ホッキョクグマ、マレーグマ。世界のクマ8種類の生態を、かわいくイラストで楽しく紹介した知識絵本。食事、泳ぎ、木登り、足の速さ、冬眠と、様々な視点で比較する。見返りにクマの生息地図あり。

『草木とみた夢』 谷本雄治/文 大野八生/絵 出版ワークス 2019.3 ¥1600

日本の植物学の父と呼ばれ、植物の研究に人生を捧げた牧野富太郎の伝記絵本。彼は高知県に生まれ、16歳で植物学の知識を身につけた。「牧野日本植物図鑑」はその集大成であり、現在も広く親しまれている。彼は研究のみならず、植物知識の普及活動にも積極的に関与した。どんなことでも情熱をもって臨み、自分が信じることをつらぬくことの大切さを教えてくれる。

<読み物-低学年から>

『カイとティムよるのぼうけん』 石井睦美/作 ささめやゆき/絵 アリス館 2019.3 ¥1400

6歳の誕生日の夜から、一人で寝ることを家族に宣言した男の子カイ。ひとりぼっちの部屋へやってきた420歳の妖精ティム。夜が怖くて眠れない子どもの面倒をみるお手伝い妖精だという。1晩目は恐竜の世界、2晩目は豪華幽霊列車に乗車、3晩目は巨大トラ

ンプの世界…。毎晩ティムが出てくるのを楽しみにするカイだったが…。一人寝を始める時期の子どもに手渡したいファンタジー。

『魔女ののろいアメ』 草野あきこ/作 ひがしちから/絵 PHP 研究所 2018.10 ¥1200

お姉ちゃんの借りた図書館の本まで返しに行かされたサキ。「ばかばかばか」と唱えながら歩いていると、「誰かさんの悪口を10個言いながらアメを混ぜると、まずくて気絶してしまうのろいアメが作れるんだよ」とアメ屋のおばあさんに声を掛けられる。サキは、早速、お姉ちゃんへの、のろいアメ作りを始めるが…。第65回青少年読書感想文全国コンクール課題図書（低学年の部）。

＜読み物—中学年から＞

『子ぶたのトリュフ』 ヘレン・ピーターズ/文 エリー・スノードン/絵 もりうちすみこ/訳 さ・え・ら書房 2018.1 ¥1400

小さく生まれ、死にそうな子ぶたをもらったジャスミン。子ぶたにトリュフと名付け、獣医である母親にアドバイスもらいながら世話を続けていった。やがて、立派に成長したトリュフは、鼻で穴を掘る習性を生かし、土に埋まった物を探し当てることができるようになるが、その特技をいかす大事件が…。第65回青少年読書感想文全国コンクール課題図書（中学年の部）。

＜読み物—高学年から＞

『ぼくとニケ』 片川優子/著 講談社 2018.11 ¥1400

幼馴染の仁菜が、公園で拾った子猫を勝手にぼくちんに連れてきた。名前はニケ。それから、毎日ぼくちんにやって来てニケの世話を焼く仁菜。「学校ずっと休んでるくせして、こんなとこ誰かに見られたらどうすんだよ。」仁菜にかけたきつい言葉を後悔していたある日、ニケの具合が悪くなる。病院で告げられた病名は…。第65回青少年読書感想文全国コンクール課題図書（高学年の部）。

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』 緒川さよ/作 久永フミノ/絵 朝日学生新聞社 2019.2 ¥1200

辰年生まれだから辰子。こんな古臭い名前がうんざりしていた小5の辰子だったが、同居するおばあちゃんから、長唄松木流の大切な跡取りとしての思いを託された名前だったことを知る。おばあちゃんの認知症が徐々に進み、共に過ごす時間を大切にしたいと感じながら、懸命に寄り添う家族やおばあちゃんの周りの人々の愛情溢れる物語。第9回朝日学生新聞社児童文学賞受賞作品。

＜読み物—中学生から＞

『まく子』 西加奈子/著 福音館文庫 2019.2 ¥650

ぼくは「せいきょういく」というやつを受けた。勝手に阿保な男子は嫌いだ、女子は得体の知れない何かに変化する化け物に見えた。そして変わっていく自分の体が恐ろしかった。そんなぼくの前に「撒(ま)く」ことが大好きなコズエがやってきた。温泉街に住む小5の少年が、子供から大人への変化を受容していく様を描く。2019年公開映画の原作。2016年刊、福音館文庫。

『秘密をもてないわたし』 ペニー・ジョエルソン/著 河井直子/訳 KADOKAWA 2019.2 ¥1400

わたしは14歳。重度の脳性麻痺で体のどこも動かせないし、話せない。でも頭はちゃんと働いていることを周りの人はうっかり忘れてしまう。ある日殺人犯の告白を聞いてしまい、何とか伝えようとするが…。養護学校の教諭である著者が、里親の愛情を受け、豊かな心を持った少女の視点から、周囲の人々の姿を描いたサスペンス。2018年国際児童書賞(高学年部門)受賞作品。

＜ノンフィクション—小学校低学年から＞

『やさいのさいまいとかんさつ』 藤田智/監修 学研プラス 2019.2 ¥2700

小学校低学年向けに、野菜栽培の失敗しないコツや、観察のポイントを解説。また、簡単な料理レシピを紹介。病気になった葉や、病害虫への対応も掲載。コピーして使える「かんさつカード」は、ダウンロードも可能。ミニトマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ゴーヤ、オクラ、エダマメ、トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモの10種類の野菜栽培を、全6巻で掲載。

＜ノンフィクション—小学校中学年から＞

『よくわかるユニバーサルデザイン 考え方から社会への広がりまで』 柏原士郎/監修 PHP 研究所 2019.3 ¥3200

できるだけ多くの人が、不便を感じずに利用できることを目指すユニバーサルデザイン。その考え方や歴史、基本ルールとなる7原則などを解説。「くらしのなか」「まちなか」「心とコミュニケーション」のテーマ別に、具体例を紹介し、安心して快適に暮らせる社会をつくるにはどうしたらよいかを考える。福祉やバリアフリーの学習で活用できる。「楽しい調べ学習シリーズ」。

＜ノンフィクション—小学校高学年から＞

『もうひとつの屋久島から 世界遺産の森が伝えたいこと』 武田剛/著 フレーベル館 2018.3 ¥1500

1993年、日本で初めてユネスコ世界自然遺産に登録された屋久島。島のいたるところで行われた原生林の伐採や、その後の伐採中止運動、縄文杉人気による観光客の急増、貴重な「植生の垂直分布」の発見・保護等、屋久島の過去・現在・未来にせまる、渾身のドキュメンタリー。第65回青少年読書感想文全国コンクール課題図書（小学校高学年の部）。

＜ノンフィクション—中学生から＞

『ことばハンター 国語辞典はこうつくる』 飯間浩明/著 ポプラ社 2019.1 ¥1200

僕は、『三省堂国語辞典』の編纂者。珍しいな、知らなかったな、と思う言葉に出会ったらとにかく写真を撮るなどして全部記録。僕と一緒にカメラを片手に町にワードハンティングに出かけよう！家に帰ったらアニメのDVDからも。今使われている生きた言葉を捕まえ、役立つ辞書作りに奮闘する著者の「辞書をつくる」という仕事について綴る。「ポプラ社ノンフィクション」シリーズ。

『10代のための疲れた心がラクになる本 「敏感すぎる」「傷つきやすい」自分を好きになる方法』 長沼睦雄/著 誠文堂新光社 2019.2 ¥1300

心がパンクしかけても自分でセルフケアできるよう、精神科医が、基本的な知識と状況を打開する具体的な方法を教える。ストレスの正体や「超敏感気質(HSP)」についての知識、傷ついた心との向き合い方、自分を楽にする技術など、チェックシートや見開きの漫画を用いてわかりやすく伝える。表紙も漫画で、思春期の子供たちが手に取りやすい工夫がされている。

＜研究書＞

『「探究」の学びを推進する高校授業改革 学校図書館を活用して「深い学び」を実現する』 高見京子/著 稲井達也/著 学事出版 2019.1 ¥1800

学習指導要領の改訂に伴う教育改革を、生徒の豊かな学びを実現する好機と捉え、学校図書館を活用した探究的な学びが、高校の授業を変え、生徒を変えると提案。前半は、大学入試制度改革、「探究学習」など、教育改革と学校図書館の関係を解説。後半は、高校の司書教諭として実践を積んだ著者が、「深い学び」につながる事例を紹介する。「図書館教育ニュース」付録の連載に執筆。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。